



2025年11月14日

各位

会社名 株式会社 Speee  
代表者名 代表取締役 大塚 英樹  
(コード番号：4499 東証スタンダード)  
問合せ先 取締役 CFO 西田 正孝  
ir@speee.jp

## 2025年9月期通期 決算説明会（動画）

2025年11月14日（金）に、株式会社 Speee（本社：東京都港区、代表取締役：大塚英樹、以下：当社）の2025年9月期 通期決算説明会を行いました。

2025年9月期通期の決算説明資料のご説明と、投資家様が疑問に思われるであろう主なご質問に対する回答を動画とレポートにてご報告いたします。

### ■決算説明会 動画

当社代表大塚、取締役久田よりお話ししました、決算説明会につきましては、以下 URL よりご視聴ください。

<https://youtu.be/NT0JwWDDjG0>

- 00:00 決算説明資料のご説明
- 22:08 Q&A

### ■Q&A レポート

Q. ステーブルコイン事業の進捗状況について、外部環境も含めて教えてください。

進捗状況ですが、我々が担当しているシステム開発、国内外の金融機関様とのパートナーシップ開拓はしっかりと順調に推移しているかと思えます。また、Project Pax フェーズ2 というところも、しっかり進めさせていただいております。

外部環境は、この3ヶ月、半年、本当にステーブルコインに関連するニュースキーワードを聞くことが増え、明らかなモメンタムが来ていると思っています。

代表的なところで言うと、アメリカのステーブルコイン法案である GENIUS 法案が可決され、TradFi（伝統金融）の中でステーブルコインが発行流通されていくというのは本当に大きなニュースで、我々が話す関係者の中でも一番関心が高い出来事だったかと思えます。

また、それ以外にも欧州やアジア諸国で、数々の金融機関がステーブルコインに参入するというニュースが出ていますし、我が国においても、先日報道があったいわゆる3メガステーブルコインが、金融庁さんの枠組みである「フィンテック実証実験ハブ」の中で、取り組みがあるということは本当に大きなニュースだったかと思えます。

もう一つは、あくまで資金移動業型ということで、我々が取り組もうとしている銀行さんや信託銀行さんが発行するようなステーブルコインとは異なりますし、ユースケースもリテール向けとホールセール向けの違いはあるんですけども、JPYCさんが日本発のステーブルコインを実際に発行されたということ自体、ステーブルコインにとってはしっかり大きな一歩だったかと思っております。こういった形でステーブルコインと、トークン化預金関連事業というところも大きく伸びていくと思

ております。

先ほどの進捗に戻らせていただきますと、やはりステーブルコインの発行があるかと思えます。本来であれば、昨年末に発行を予定していたところが未だに発行ができておらず、大変遅れてしまっているということについては、改めて本当に心苦しく、大変申し訳なく思っております。その主要因としては、昨年末にあった他社の流出の報道を受けてというところまでございまして、それに対して金融庁さんや各銀行さんとコミュニケーションを取りながら、一刻も早い発行を目指して頑張っていきたいと思っております。

このステーブルコインの発行に対する株主の皆様のご期待は、本当に日々ひしひしと感じているところでございまして、私達としてもご期待を1日も忘れる日はございません。まずは一刻も早く発行すること、それと並行し国内外の金融機関さんとパートナーシップなど、ポテンシャルを大きく広げるような取り組みを進めながら頑張っていきたいと思っております。

#### Q. トークン化預金関連事業について教えてください。

トークン化預金というのは、いわゆる Tokenized Deposit と呼ばれ、ステーブルコインと同様にブロックチェーン上、オンチェーン上の決済手段です。

ステーブルコインは、現金に近いような特性を持っていて、例えば現金は1万円を持って1万円を渡す、渡した時点で決済完了となります。ステーブルコインは、新しく資金決済法で定義されたコインですけれども、ブロックチェーン上でデータが移転することで決済完了（セトルメント）します。トークン化預金（Tokenized Deposit）は、あくまで預金、あくまで預金をブロックチェーン上で管理していく、その預金がブロックチェーン上で移転していくというような仕組みになっています。こういったステーブルコインとトークン化預金（Tokenized Deposit）の違いや、なぜそれをこのタイミングで同時に取り組むのかは、この次の想定質問でお話させていただければと思います。

トークン化預金（Tokenized Deposit）に話を戻しますと、世界最大の銀行である JP モルガンは当時の JPM コイン（現 Kinexys Digital Payments）に5年以上も前から取り組んでいる歴史あるプロジェクトで、さらに最近では Citi さんや HSBC さんなど、グローバルを代表するトッププレーヤーが取り組んでいます。

クリプト（暗号資産）の世界ではなく、TradFi（伝統金融）の世界ではステーブルコインよりも大きく実績があるのがトークン化預金です。

トークン化預金のベネフィットやユースケースとして、代表的なプログラマブルペイメントと、DvP 決済についてお話をさせていただきます。

まずプログラマブルペイメントについてです。これまではオンラインバンキングで経理担当の方が送金指図するなど、法人が送金指図を出していましたが、プログラマブルペイメントでは、SAP さんのような ERP のシステムに対して、銀行がデータを取りに行き、何に対して、いつ、いくら支払うかというのを元に自動予約をして支払いをします。

これは将来的に何に繋がるかというと、例えば検収書を出す作業が自動化されたり、もしかしたら請求書であったり請求というプロセス自体、これまでの支払指図なども自動化され、支払い後に関しても、債権管理・債務管理は払うべき金額と実際払った金額の突合、消し込みも自動化されていくかもしれない。さらに、内部監査や外部監査も自動化されていくかもしれない。

今までのレガシーのシステムから新しいオンチェーンのシステムで決済手数料が下がるだけでなく、企業様のバックオフィスコストを下げるというところが見られていくかと思えます。

これはオンチェーン金融全体によることですが、AI やブロックチェーンを活用してオートメーションが進んでいくというのは本当に大きなインパクトがあるものと考えております。

もう一つの DvP 決済は、企業様の日々の資金繰りに影響するものです。当然普通預金で持っているよりも、何かしらの証券で運用している方がリターンが高く、資金効率が高くなりますが、既存の証券だと約定してから決済完了するまでに2日ないし1日かかっている、結局日々の資金繰りにはやや使いづらい、柔軟性が落ちると思います。

それに対し DvP 決済は、セキュリティトークン、証券側もトークン化され、トークン化預金で DvP 決済

(同時決済)ができれば、即時で移転もでき、エスクロー(※商取引の際に信頼の置ける第三者を仲介させて取引の安全を担保する第三者預託)等の取り組みも不要となるため、企業様にとって、よりキャッシュマネジメントに使いやすいものになります。

加えて、24時間365日稼働していることによって、企業様の持つ資金を抑えられます。

トークン化預金には様々な良いところがあるんですけども、代表的にはそのようなベネフィットがあります。

私達のトークン化預金関連事業は、まずは事業法人様向けを想定しており、法人様向けは個人向けに比べてデジタル化が遅れており、構造的な課題もございます。そういった変化に対して、事業法人様も感度が高いため、しっかりと取り組んでいきたいと思っていますし、トークン化預金関連事業は間違いなく大きな市場を作っていくと考えています。

#### Q. ステーブルコイン事業に着手しながら、トークン化預金関連事業にも取り組むことの意義を教えてください。

ステーブルコイン事業に大きな投資をさせていただいて、かつそれがまだ立ち上がっていない段階で、新しいトークン化預金関連事業というさらなる新規事業に取り組むことについて、もしかしたらご心配をお掛けしてしまう部分もあるかと思います。

このトークン化預金関連事業というのは、ステーブルコインと同等かそれ以上のポテンシャルがあると考えていますし、やはりディープテックテクノロジーの事業というのは、非常にタイミングが重要です。ステーブルコインやトークン化預金含めて、今がまさにオンチェーン金融が立ち上がるタイミングで、しっかりと勝負していく必要があると考えています。

ここで、ステーブルコインとトークン化預金について、「なぜ同時に取り組むのか」「それぞれの強み弱みは何なのか」について、少し詳しくお話させていただきます。

ステーブルコインの強みは、ある意味銀行さんからすると外部システムであるというところ。既存の勘定系システムに、大きく手を入れることなく取り組むことができる、導入コストが低くできることです。システム開発と運用コストを抑えることができ、オペレーションについても、なるべく複線化しないように我々の方で設計させていただいているところが大きいかと思います。

一方で、(ステーブルコインの)弱み(課題)としては法的整理があり、当然ステーブルコイン法案がある国もあれば、ない国もある。ある国の中でもバラバラの法律があり、各国ごとに法的整理をしなければいけない。その法的整理を調整しなければいけない、必要に応じてライセンスを取っていかなければいけないというところで、導入コストは低いけれども、法的整理をしっかりしないと、グロースができないという課題があります。

トークン化預金の強みとしては、やはり預金であることですね。広くあまねく、今までずっと扱われてきた預金なので、法的整理が既についているものであり、ステーブルコインと違って、トークン化預金自体に利子がつけられるというところも、大きなポイントかと思います。

一方で何が(トークン化預金の)弱み(課題)になるかというところ、預金であるからこそ、既存の勘定系システム等と、オンチェーンの勘定系システムをリアルタイムで連携させなければいけないため、非常に大きなシステム投資がかかります。

こういったそれぞれの強み弱みが、ステーブルコイン・トークン化預金それぞれにあるので、その両方に取り組んでいくということが重要と考えています。

改めてもう少し深掘っていくと、そのステーブルコインとトークン化預金、それぞれ特性が違うので、今取り組んでいるプレイヤーが違うということ。

もう一つ非常に重要な視点としては、トークン化預金に大きな投資を持って取り組んでいたプレイヤーが、軒並みステーブルコインへの参入もしている。強いプレイヤーは、両方立ち上がり共存する世界に対して、両方張っているというところが非常に大きいかと思います。

改めて最後となりますが、繰り返し申し上げているとおり、Datachainはデカコインを目指しており、

ステーブルコイン、トークン化預金それぞれ、どちらかが大成功すると、（デカコインを）しっかりと狙っていけるような規模感がある事業に取り組んでいます。AI を含めたディープテック全体としても、もしかしたら今現時点である、一番大きなチャンスなのかもしれないなと思っていますし、少なくともブロックチェーンにおいては今後もうこれ以上来ることのない大きな波だと思っていますので、ステーブルコイン・トークン化預金同時に取り組むというのは、非常にチャレンジングではありますが、会社としてもしっかりやるべきと意思決定をし、全力を尽くして成功させていければと思っています。

## ■会社概要

社名 : 株式会社 Speee

事業概要 : 金融 DX 事業、レガシー産業 DX 事業、DX コンサルティング事業

設立 : 2007 年 11 月

所在地 : 東京都港区六本木三丁目 2 番 1 号

代表者 : 代表取締役 大塚 英樹

証券コード : 4499 (東証スタンダード市場)

URL : <https://speee.jp/>

## ■本件に関するお問い合わせ

株式会社 Speee IR 担当 [ir@speee.jp](mailto:ir@speee.jp)